

## 部局間交流協定に基づく海外交換留学生の滞在状況 (2015-2017)

加藤 道代・陳 思聡・八鍬 友広

東北大学大学院教育学研究科

## 1. はじめに

東北大学大学院教育学研究科は、東アジアを中心に、9つの海外大学の11部局と学術及び学生交流協定を締結している(2018年1月現在)。交流協定に基づいて研究科が特別研究生として受け入れた、または受入れ予定のある海外交換留学生数は、2015年10月以来のべ11名に達した。その詳細は、表1にまとめたとおりである。

留学期間は半年～1年間の短期間であり、単位履修の制約や条件がないことから、期間中の過ごし方は学生ごとに自由度が高く多様である。教育ネットワークセンターは、留学生の窓口として、留学生がどのように生活を送っているのかを知るために、留学の成果と課題を中心としたアンケート調査を実施した。本稿では、教育ネットワークセンターの国際交流業務を報告するとともに、今後のより良い留学生受入れ環境を検討するための資料を提供したい。

表1：海外交換留学生に関する情報 (n=11)

	所属大学・部局	専攻・学年 (留学開始時点)	留学期間	研究題目	受入れ教員 (研究分野)
1	中国・東北師範大学・教育学部	比較教育学・D2	2015.10.1~ 2016.9.30 (1年)	日本教員校内研修の「共通性」と「個別性」について	有本昌弘 教授 (教育測定評価論)
2		教育学原理・M2	2017.10.1~ 2018.9.30 (1年)	中日の義務教育段階における教師の流動制度の比較研究	福田亘孝 教授 (教育社会学)
3	中国・杭州師範大学・教育学院	高等教育学・M2	2016.4.1~2016.9.30 (6カ月)	教養教育の日中比較研究	井本佳宏 准教授 (教育課程設計論)
4		高等教育学・M2	2016.4.1~2016.9.30 (6カ月)	A Comparative Study about Teacher Qualification System between China and Japan	後藤武俊 准教授 (教育課程設計論)
5	中国・南京師範大学・教育科学学院	教育経済・マネジメント・M2	2016.10.1~ 2017.9.30 (1年)	Elementary Education Reform in Japan and China's Application	宮腰英一 教授 (比較教育システム論)
6		比較教育学・M2	2016.10.1~ 2017.9.30 (1年)	日本中小学における国際理解教育に関する科目開発	有本昌弘 教授 (教育測定評価論)

7		比較教育学・M2	2017.10.1~2018.9.30 (1年)	The Basic Education Reform in China and Japan	青木栄一 准教授 (教育行政学)
8		科学技術教育・M2	2017.10.1~2018.9.30 (1年)	Comparison on Science Textbook in Junior Schools between Japan and China	柴山直 教授 (教育測定評価論)
9		高等教育学・M1	2018.4.1~2019.3.31 (1年)(受入予定)	Comparative Study of Higher Education in China and Japan	島一則 准教授 (教育計画論)
10	中国・南京師範大学・心理学院	発達教育心理学・M3	2017.10.1~2018.2.28 (6カ月)	Memory's Mechanism and Pattern of Performance regarding Special Children	本郷一夫 教授 (発達心理学)
11		発達教育心理学・M3	2017.10.1~2018.2.28 (6カ月)	The Dynamics of Achievement Goal from a Self-determination Theory	加藤道代 教授 (臨床心理学)

## 2. 調査方法

交換留学生の滞在期間中、留学生の研究と生活状況を把握するため、滞在后期～帰国前時点に、アンケートに自由記述で回答を願った。項目は以下の7項目である。

- (1) あなたの大学名とお名前、滞在期間、滞在中の研究テーマを教えてください。
- (2) 東北大学に滞在して困ったことはありませんか。滞在期間のいつごろ、どんなことに困ったかを教えてください。①生活面；②教育研究面
- (3) (2)で困ったことがあったという方は、どのように解決したかを教えてください。
- (4) 東北大学に滞在して良かったことは何ですか。具体的に教えてください。①生活面；②教育研究面
- (5) 東北大学教育学研究科に滞在したことは、あなたの研究にどのように役立ちましたか。
- (6) 東北大学教育学研究科に滞在したことで、あなたの将来の進路にどのように役立ちそうですか。
- (7) その他、留学全体としての感想があればお書きください。

## 3. 結果

質問項目ごとの回答を表2に示した。回答に使用されていた言語は、日本語以外に、中国語、英語がみられたため、筆者らが日本語に訳してまとめた。回答内の個人名は除き、内容が変わらない範囲で文法上の修正を加えた箇所がある。また、一部に「(ヒアリングによる)」と記された回答を含めたが、これは、アンケートへの回答ではなく、ヒアリング時に語られた内容である。

表2：交換留学生による回答（1. 大学名、氏名、滞在期間、滞在中の研究テーマは略）

**2. 東北大学に滞在中に困ったことはありましたか。**

<b>生活面</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活において特に困ったところがない。ただし、交通、飲食などの料金が本国より高いので、これはちょっと困ったなあと思っている。</li> <li>・食習慣は中国と違うところがあって、慣れるまでは難しかった。</li> <li>・授業場所と学生寮は別々のキャンパスにあり、また授業時間とキャンパスシャトルバス時刻表は合わないため、授業参加には徒歩で、時間かかった。学校の食堂は品種があまりなかった。</li> <li>・三条町の寮に住んでいるので、キャンパスに行く時は市バスを利用している。バスはほとんど一時間に1回で少し不便。</li> <li>・学内で怪我して、歯が折れて、今通院治療中(ヒアリングによる)。</li> </ul>
<b>教育研究面</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長い間日本語を勉強してきたが、よくわからない専門用語はやはりある。</li> <li>・宿題が難しい、英語から日本語まで翻訳が難しい、発表が難しい</li> <li>・沢山の日本文献を教授から頂いて本当に感激する。しかし、資料が非常に数多くて、読むことと分類のようなことに大変である。自分は語学力をもっと精進しなければならない。</li> <li>・研究テーマの関連文献は比較的少なく、また自分の日本語能力不足のため、文献読みには一定の困難があった。</li> <li>・私の研究テーマは大学生に積極的に授業に参加させるための授業ストラテジーに関する研究である。日本滞在中は中国で入手できない外国語文献を集めたが、東北大学の授業の仕方も知りたかった。</li> <li>・最初、授業の形がまだわからない状態だったので不安だった。</li> <li>・日本語がわからない学生に向けた英語による心理学の授業がひとつもないのが残念だった。</li> </ul>

**3. 2で困ったことがあったという方は、どのように解決したかを教えてください。**

- ・最初の時は少し困ったが、教授と日々の交流が多いので、時間をかけて段々わかるようになった。
- ・分からないところを先生に伺った。あとは自分で日本語を勉強し続ける。
- ・生活面では、自分が料理作りを勉強し、中華物産店に食材を買いに行くこともあった。研究面では、自分の日本語能力を高めるほか、制限のないインターネットを有効活用し、英文関連文献を探したことによって、文献リストを増やした。
- ・晴の日は徒歩、雨の日は地下鉄かキャンパスシャトルバスで学校に行った。学校で昼食を取る場合はお弁当を用意した。
- ・東北大学図書館で研究テーマに関連の有る文献を見つけて、図書館HPからも電子文献をダウンロードできた。
- ・市バスで我慢した。
- ・先生たちが授業について詳しく説明してくれた。たとえば、「授業の目的」「宿題とテストの形」について教えてくれた。
- ・他に英語の授業を探して「日本美術史」を選択した。

**4. 東北大学に滞在中に良かったことは何ですか。具体的に教えてください**

<b>生活面</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東北大学の行った見学・体験活動がよくあり、自分の目で日本の社会や文化を見ることができて、日本の教育に関する理解も前より深まった。</li> <li>・皆は優しい人だ。</li> <li>・中国の料理をたまに食べたいですが、ここで本格の日本料理を食べられると、美味しく新鮮で、とても楽しかった。その上、それぞれの日本人と付き合い、みんなの考え方が様々なので、視点や見方がほとんどの中国人と違っている。これを通して、中国で思ったことないことを発見しまして面白かった。</li> <li>・東北大学での滞在中は学生寮に入居した。他の国の学生と共同生活し、いろんな国の文化や生活習慣を知った。日本出身の寮の友達も日本文化や仙台生活など紹介してくれた。仙台での生活が大変助かった。</li> <li>・1名の中国博士後期課程留学生がチューターとしていてくれて、彼女と毎週に研究室でその一週間の勉強と生活について話した。チューターは非常に熱心で、たくさん助けてもらった。</li> <li>・日本人はとても優しく、いつも笑顔だ。買い物する時、私のわからないところを一生懸命に説明していろいろと助けてくれた。仙台の食べ物も美味しい。</li> <li>・事前に教務係から十分な情報が得られたので、宿舎、入学、在留登録など手続きは順調(ヒアリングによる)。</li> <li>・寮の環境が素晴らしい。さらにチューターが勉強や生活を十分に支えてくれた。</li> </ul>
------------	--

---

**教育研究面**

- ・毎週研究について教授と面談できるのは本当にありがたく思う。そして、教授のおかげで、中小学校への訪問ができて、貴重な研究データも手に入れた。
- ・色々な教育現場に見学した。楽しい。
- ・いっぱい日本の貴重な資料を手に入れた。それに、日本の中学校に見学に行ったことがあって、色々勉強になり日本に来てよかったなあと思っている。
- ・授業の参加と観察によって、日本の大学の授業の仕方と学生の勉強の仕方をより詳しく知った。高等教育学専攻の私にとって、現場で参与観察の形で、日本と中国の大学の授業と勉強の仕方を比較できることは、大変貴重なことだった。
- ・先生はたくさんの先生方を紹介してくださいました。彼らの授業に参加して、授業後にも交流があって、たくさん勉強できた。得たものは多かった。
- ・先生は毎回の現場調査に私を連れて研究方法を教えてくださいましたので、いい勉強になった。そして先生たちは、私の取り組んでいる修士論文を読んで、いろんなコメントをくれたのでありがたかった。私のチューターは、日常生活も日本語もいろいろ助けてくれた。特に演習の内容を読んで、おかしな文法などを教えてくださいました。とても素晴らしいチューターである。
- ・先生はとても親切で、最初は私に適した英語の授業を探すのを助けてくれた。また、私のために特別授業を開いてくれたので、そこで私は自分の研究を紹介し、先生から有益な助言をもらうことができた。
- ・先生が配慮し、日本語と英語を混ぜて授業してくれて感謝している(ヒアリングによる)。

---

**5. 東北大学教育学研究科に滞在したことは、あなたの研究にどのように役立ちましたか。**

- ・教授の丁寧なご指導のもとで、研究方法の部分がさらにはっきりしてきて、事例研究の部分もちゃんとデータが取れた。
- ・自分の研究テーマは段々に確定している。
- ・先生たちからもらった資料とか価値あるアドバイスが私の卒業論文に非常に役立った。そして、研究の視野や考え方も広がった。
- ・自分の研究テーマであるデジタル化を受けて大学生が授業中に携帯を使用することは授業に対する影響について、授業観察や先生との話によって情報収集した。また図書館とインターネットより関連の日本語と英語文献を収集して、論文の初段階準備をした。
- ・図書館でたくさんの関連文献を見つけた。また、何人の先生方のお勧めでたくさんの新しいアイデアをいれた授業を見学できた。授業後にもそれらの先生とお話しができ、得たものも多かった。
- ・私の研究にとって、先生たちのコメントは重要である。新しい考えや今後の方向性を指示してもらえた。論文の細かいところも見直すことができた。
- ・先生と話し合う中で、(研究テーマとしている)中国都市部の子どもたちと地方からの都市移住者の子どもの特殊性にもっと注意を払わなければならないということや、新しい統計的手法についても知ることができた。

---

**6. 東北大学教育学研究科に滞在したことで、あなたの将来の進路にどのように役立ちそうですか。**

- ・将来は日本語と日本の教育に関わる仕事をするつもりで、この経験を生かそうと思う。
  - ・機会があれば、もう一回東北大学に戻ろうと思う。
  - ・これから日本に関する職業を就職したい。例えば、中国での日本会社に働きたい。中国の会社に入っても、日本語授業とか、日本製品に関する営業とか、東北大学教育学研究科に滞在したことは私にとってとても貴重な経験になる。
  - ・将来には教員になりたいから、東北大学滞在中に日本の中学校にも見学した。学校は学生の勉強だけではなく、学生の多様な趣味にも応援すると気付いた。将来にもし念願の先生になったら、自分もそのように全面的に学生の可能性を考えて授業方法を設計して、日本の先生のような厳格な授業態度を身につけたい。
  - ・東北大学での交換留学によって今までと全く異なる生活を体験できた。たくさんの優秀な先生と学生に出会った。彼らとの交流によって、いろんな人生の歩き方や将来に対する考え方を知り、自分も将来についてもう一度考え始めた。
  - ・研究が進み、日本語も上達できそうだ。
  - ・今回の経験で、トラブルにどう対処するか、全く馴染みのない環境にもどう適応するかを学んだ。私の将来にとっての宝となるだろう。
-

---

**7. その他、留学全体としての感想があればお書きください。**

---

- ・東北大学は中国でも有名で、留学するこの一年間は色々な思い出があり、将来も東北大学の一員であったことに誇りを持ちたい。
  - ・東北大学の研究・生活に関する情報を大学の知り合いに伝えたところ、東北大に交換留学に興味がある人が何人もいた（ヒアリングによる）。
  - ・東北大学に滞在して以来、沢山素晴らしい先生に世話になりまして感謝な気持ちを心の中でいっぱい込めている。後は、日本の文化層面が感じられるだけでなく、自分の卒業論文に非常に役立った。要するに、日本に来て本当によかった。
  - ・短い交換留學生生活は間のなく終わるが、自分の学生時代もあと少しで終了である。日本の生活を体験し、日本の社会規範や生活と勉強にたいする態度などたくさん学べるところを見ることができたこの交換留学の機会をいただいて、大学に感謝の気持ちである。助けてくれた先生方にも感謝している。この数か月の交換留學生生活はきっと自分の人生の貴重な思い出になる。
  - ・この度東北大学に一学期にわたって交換留学の機会を得て、普段と違う生活を体験できた。またいろんな国の学生と出合いができて、強い絆を結んだ。授業の日程はそんなに厳しくなかったので、日本のいろんなところにも旅をした。交換留学期間中、仙台とその周辺はもちろん、東京、横浜、大阪、京都、奈良、北海道にも友達と行って、各地の美景を堪能した。日本には地元の特徴があるイベントがたくさんあって、日本出身の友達の案内で、三味線コンサート、桜祭り、東北大学の国際フェスティバル、夏祭りなどにも体験した。これらの体験によって、日本文化をより深く理解できて、日本に住むみなさんの生活をより客観的に認識した。今後また日本に旅行に来る機会があるかもしれませんが、今回の交換留学は日本の生活を確実に体験できて、自分の視野も広がった。
  - ・東北大学での交換留学はただの四か月で短かったが、非常に充実していた。独立で生活する力を身につけて、人生のいい思い出になった。東北大学の助けてくれた先生や友達のすべてに感謝し、後輩もこのような交換留學生生活を体験できたらいいなと思っている。
  - ・東北大学に来てよかった。いい経験だった。
- 

#### 4. 考察

滞在中の海外交換留學生は、授業を聴講するだけでなく、修士もしくは博士課程の学生として、自身の研究にも時間を割いている。アンケートの結果からは、そうした活動に際して、受入れ教員や他の教員からの指導、助言の他、ゼミにおける交流、データ収集、図書館利用による本国では入手の難しい資料の収集、教育現場や活動現場の視察や参与が役立っていたことがわかった。いずれも、受入れ教員をはじめとする研究科教員の協力に負うところが大きい。

教育研究上の困難さの1点目は、留學生一般において常に指摘されるように、言語の問題から生じていた。いずれの留學生も日本語の文献や授業への取り組みには多大な努力を要したようである。とりわけ、日本語が不得手な留學生にとっては、英語開講の授業が全学教育においても数少なく、研究科にも用意されていないため、困惑につながったことも推察された。部局間交流協定の交換留学では、留学許可に条件や基準はないが、適応的な留學生生活のためには、受講可能な授業の使用言語も含め、より丁寧な事前情報の提供が必要ではないかと考えられる。同時に、短期留学の場合は、語学研修自体も留学の目標に含めて考えてもらうことが重要となろう。

困難さの2点目として、受入れ教員の専門領域と留學生の関心分野が必ずしも一致しないことが指摘されていた。現状での受入れ教員の決定方法は、留學生本人の希望をもとに講座内で対応することとなっているが、留學生の研究テーマとの完全な一致は難しい。こ

の点について、アンケート結果には、受入れ教員が他教員や他授業を紹介する、あるいは複数で指導するなど、留学生の関心に応じた柔軟な対応が行われていたことも示された。こうした配慮が、最終的な留学生の満足につながったのではないかと考えられる。

また、生活に関しては、他国の留学生や寮の友人との交友関係を通じて、異文化としての日本の理解を深める体験をしていた。日本文化に直に触れたことは、多くの学生が留学の意義と感じている。一方で滞り場所とキャンパス間の交通機関の不便さ、物価や食生活の課題は、「思うとおりにはないこと」として、留学期間内に各自の努力によって乗り切ったようであった。

総じて留学体験は、少なからぬ困難を伴いながらも多くの収穫を留学生に与えたようである。留学生の中には、滞り中の経験を受けて、日本とのつながりを将来に活かしていこうと考える者や、自身の将来をとらえ直そうとする者も見られ、概ね教育学研究科への滞りに満足していることがわかった。また、生活面においても教育研究面においても、留学生の身近で親身に世話役を果たしているチューター存在は大きく、多くの留学生からチューターへの感謝の声があがっていた。研究科内の外国人教員も、折に触れて声がけをして配慮に努めている。困った時には早期に周囲に相談してもらえればありがたい。

教育学研究科には、今後も一定数の部局間交流協による留学生受入れがあると予測される。しかしその反面、相手校への留学希望をもつ日本人学生はなかなかみられない。海外交換留学生の受入れ数が派遣数を上回る点は、東北大学の全学的な傾向と一致しており、日本人学生の留学希望が欧米に偏重していることも指摘されている。この点について教育学研究科は、別途 Asia Education Leader (AEL) Course プログラムを展開しており、今後は東アジアに向けた日本人留学生派遣の面からも、交換留学生制度をより有効に活用していくことが望まれる。

## 謝辞

調査にご協力くださった留学生の皆さまに感謝するとともに、今後の充実した学生生活をお祈りします。